

第9回 山縣市子ども・子育て会議

日時 平成30年8月21日(火) 午前10時00分～

場所 山縣市役所 3階303会議室

議題 1.子ども・子育て支援計画について

(平成29年度次世代育成支援行動計画継承施策実施報告)

2. 子ども・子育て支援の施策展開における進捗状況・評価について

3. 子ども・子育て支援計画(2020年度～2024年度)策定に向けたニーズ調査について

配布資料 資料1 子ども・子育て支援事業計画の実績一覧表(平成29年度次世代育成支援行動計画継承施策事業実施報告)

資料2 子ども・子育て支援の施策展開における進捗状況・評価報告書

出席委員 三輪 聖子 委員 岐阜女子大学 家政学部生活科学科 教授

木村 麻理 委員 NPO 法人山県楽しいプロジェクト

柏木 満美子 委員 児童養護施設若松学園園長

前田 恵津子 委員 高富民児協主任児童委員代表

佐村 志奈子 委員 伊自良民児協主任児童委員代表

田中 尚子 委員 美山民児協主任児童委員代表

杉山 多美子 委員 校長会長(伊自良南小学校)

河野 隆 委員 はなぞの北幼稚園長

横山 みゆき 委員 梅原保育園長

丸茂 亜希 委員 保育園保護者代表(高富保育園)

堀井 有沙 委員 保育園保護者代表(伊自良保育園)

早川 真弓 委員 保育園保護者代表(みやま保育園)

鬼頭 立城 委員 学校教育課長

土井 義弘 委員 生涯学習課長

三島 厚子 委員 ピッコロ療育支援センター所長

梅田 義孝 委員 子どもげんきはうす館長

丹羽 洋子 委員 高富児童館館長兼子育て支援センター所長

加藤 法子 委員 子育て世代包括支援センター所長

欠席委員 山田 まなみ 委員 小中学校 PTA 代表

傍聴人 0人

事務局 子育て支援課 課長 安川 英明

子育て支援課 主幹 高井 俊哉

子育て支援課 課長補佐 藤根 紀子

子育て支援課 係長 正治 裕樹

子育て支援課 主事 高屋 陽子

1. 開会

事務局	<p>皆様おはようございます。これより第9回山県市子ども・子育て会議を開催させていただきます。</p> <p>私、子育て支援課長 安川と申します。議事に入るまでの進行をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>本日、皆様方には大変お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、平素は、当市子育て支援事業に格別なるご理解ご協力賜り暑くお礼申し上げます。今日は、子ども・子育て支援計画及びその進捗状況等についてご報告し、皆様方にご意見をいただきたいと存じますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本日出席の委員は、18名で半数以上のご出席でございますので、子ども・子育て会議規則第6条第2項により会議が成立することをご報告いたしますとともに、山県市附属機関等の設置及び運営に関する要綱第7条の規定により、会議を公開することとなっておりますので、傍聴席を用意させていただいています。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは早速次第に沿いまして進めてまいります。</p>
-----	--

2. 委嘱状及び任命書の交付

事務局	<p>はじめに委嘱状の交付をさせていただきます。</p> <p>市長から交付をさせていただきますので、その場にてよろしくお願いいたします。なお、任期につきましては、年度区切りとしたいために4月1日から2年間とさせていただきますので、ご了承をお願いいたします。</p> <p>なお、任命をさせていただきます委員の皆様には、お手元に任命書を置かせていただいておりますのでこれをもって交付に代えさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p>
-----	---

3. 市長あいさつ

事務局	それではここで、林市長があいさつ申し上げます。
市長	今回第9回になりますが、今年度からの委嘱を皆様方にさせていただきました。子ども・子育て会議の名称のとおり、やはり子ども・子育てに関して行政がしっかりとした支援をしながら、市民の皆様や全体にいかにして支援していくかかということを検討していただいたり、支援の内容を精査していただいたりして、検証していただくのが会議の大きな目的ではないかと思えます。国が平成24年に子ども・子育て関連3法を公布しまして、言うまでもなく、皆様もご承知のことと存じますが、少子化に

より子どもの人口が少なくなってきました。私はこの状況を有事だと思います。何かものごとがおきますと有事という言葉を使いますが、これは静かな有事ではないかと思います。一ヶ月ほど前にある統計を見ていましたら、これから 10 年間に日本の 15 歳から 65 歳未満までの働ける世代が 500 万人減るとのことです。65 歳ですので団塊の世代、そのあとの団塊ジュニア、そして今の少子化で合計特殊出生率が 1.4 とか 1.5 とかという状況の中で統計的にでています。山県市の人口は 3 万人いませんし、岐阜市は 40 万人、岐阜県の人口は 200 万人を切ろうとしていますので、言ってみればこれから 5 年間に日本中で働く人が、岐阜県の人口以上の 250 万人も減少するという事です。現在はリーマンショック後、雇用状況もだいぶ改善してきました、このごろは全国的にも有効求人倍率が 2 倍近くなっています。岐阜県も求人・求職の状況が 2 倍に近くなってきていまして、二人募集するところに一人しか働き手がないという現状で、そのなかであって、これから現状のように 10 年間、5 年間で減っていくというのは本当に有事ではないかと思います。そうした中で、それぞれの基礎自治体で何ができるかということそれぞれ考えているわけで、子育て支援としていろんな政策を組み立てていくわけです。市としましても 3 つの大きな政策のなかの一つがしっかりとした子育て支援をしようということで、目指すところは子育て支援日本一というキャッチフレーズを掲げております。具体的に申しますといろいろな政策がありますが、まず一番大きな政策はやはり 3 歳児以上の保育料の無料化、上限はありますが幼稚園に行ってみえる方の支援。それから不妊治療とか、多くの自治体は中学生まで医療費を無料にしていますけれども高校生の医療費の支援などの施策も行っており、振り返ってみますと、非常に山県市の子育て支援メニューは高いものがあるのではないかと思います。県内 42 市町村ありますが、出生率は常に 40~42 位という状況にあります。平成 28 年のデータは、山県市の合計特殊出生率は 1.25 です。それが県では 1.54 で、国の平均が 1.44 でいかにして出生率をあげていくかが課題となります。昨年、経済産業省にも協力いただいてビックデータで分析し、一番大きな要因は 30 代の女性の未婚率がよその市町と比較すると多いということではないかという数字もでております。いずれにしても、こうした会議を通じて、「子育て支援をしっかりと」「しなければいけない」という検証するというのがございます。皆さんのそれぞれの職場環境のなかでもこれから女性が活躍し、しっかりと働いていただけるような環境が、大きな子育て支援になると思います。そういった環境をつくっていくことがそれぞれの基礎自治体が争うことではないと

	<p>思いますけれども、これからの国のあり方、働き手を確保するという意味でのあり方を、この子育て支援という一つの手法によって、検討していただくという会議です。過去の経緯も踏まえまして、これからの山県市の子育て支援のあり方につきまして、皆様に検討いただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。</p>
事務局	<p>市長におかれまして、これで退席させていただきます。</p> <p>ここで、本日が初顔合わせとなりますので、簡単に結構ですので自己紹介をお願いしたいと思います。それでは三輪様から順次お願いいたします。</p> <p>～委員・事務局の自己紹介～</p>

4. 会長・副会長の選出について

事務局	<p>つづいて次第の 4.会長・副会長の選出についてでございますが、規則第 5 条第 1 項の規定により、委員の互選によりこれを定めることとなっております。選出方法についてご意見ございましたらお願いします。</p>
委員	<p>恒例だと思うのですが、会長のほうは岐阜女子大学の三輪委員に、副会長のほうはNPO法人山県楽しいプロジェクトの木村委員にお願いしたいと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ただいま、岐阜女子大学の三輪委員を会長に、NPO法人山県楽しいプロジェクトの木村委員を副会長にご推薦いただきましたが、いかがでしょうか。ご異議ございませんか。よろしければ拍手で、(一同拍手) それではよろしくお願い申し上げます。それでは、会長さんと副会長さんから、ごあいさつをお願いします。</p>
三輪会長	<p>ただいま、会長に選出されました岐阜女子大学の三輪と申します。昨年度の途中から引き継ぎまして、本年度もどうぞよろしくお願いいたします。</p>
木村副会長	<p>副会長に選任されました、木村と申します。今年もまた子ども・子育てが始まるんだなど。子育て支援課さんという新しい体制でよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは議題に入りますが、規則第 6 条第 1 項の規定により会長が会議の議長となりますので、ここからの議事進行を三輪会長にお願いいたします。</p>

5. 議事

会長	<p>それでは進めさせて参りたいと思っております。まずお手元の資料にそって進</p>
----	--

	<p>めさせていただきたいと思いますが、せっかく皆さん集まっていたきましたので、忌憚のないご意見等だしていただけたらと思います。</p> <p>まず、議事の一つ目にあります「子ども・子育て支援事業計画について（平成 29 年度次世代育成支援行動計画継承施策事業実施報告）」について、事務局のほうから説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>～配布資料の確認～</p> <p>～資料 1 について説明～</p>
会長	<p>支援事業はかなりのたくさんのものでございまして、今説明がありましたとおり、次の「子ども・子育て支援の施策展開における進捗状況・評価について」というところがありますので、こことあわせて後から皆様方に質疑等していただければと思いますので、つづけてこのところの説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>～資料 2 について説明～</p>
会長	<p>盛りだくさんの説明となっておりますけど、先ほどの 29 年度の実施報告とあわせて、ご質問ご意見等ございましたら、よろしくをお願いいたします。</p>
委員	<p>今説明のなかで、待機児童がないというお話をうかがっておりますけど、実感として 0～2 歳の潜在的な待機児童が増えたかなという印象があります。そのことについて、数値的にはでてみえないかと思いますが、国のほうが 3 歳児以上の無償化をこれから進めていくにあたって、山口市としては今後、待機児童とのからみも含めて、どのような施策を考えていって、今後の数値的なものに入れていこうと思っているのかについてお聞かせいただけたらと思います。</p>
事務局	<p>今言われたとおり、数字上は表面上の待機児童がこちらも当然確認できていませんので、定かではないという言い方しかできません。この前国の会議に出させていただきました。幼児教育無償化については、2 号認定で待機児童が悪化するのではないかとということも各市町村から質問が出ていましたが、国におきましては、待機児童の解消は未満児、いわゆる 3 号の子が大層となっており、2 号認定には影響ないという言い方をしていました。山口市におきましても、この当初 27 年度から 31 年度までの計画を策定したときの子ども・子育て支援事業計画のニーズと、今のニーズというのは十分違うものであろうと予想しております。後ほどニーズ調査についてのスケジュールをご説明しますが、このニーズ調査の結果を踏まえて、次の計画はそれに沿った内容に多少なるか大きくなるというか不明ですが、変わる可能性があるものと考えています。</p>
委員	<p>たぶん先ほど市長さんが言われていたように社会情勢がかなり変わって</p>

	<p>きていて、私はこちらの男女共同参画の会議に出ていて、ほぼM字カーブというのが山県市はない状態だと言われています。いわゆる出生の年齢の女性がみんな働いている、先ほど言われた未婚だから働き続けていることと、労働力が足りないのでお子さんを持つお母さんもコネクションで働いているという状況が体感としてすごくあります。国のほうは待機児童の解消という方向だと思いますけれども、山県市は待機児童は解消されているので、施策というのは次のニーズ調査後に考えなければいけないと思います。</p>
会長	<p>一応子育てのほうのニーズは充足をしているということです。では他の事業についていかがでしょうか。何かありましたら、(委員：はい) お願いします。</p>
委員	<p>このような場は不慣れでうまく思いを伝えられるかわからないですが、意見を言います。病児保育についてですが、7月に育休が終わりまして、1歳の子を保育園に預けているのですが、保育園にはいってすぐ体調悪くなりまして、高富にある「おひさま」という病児保育の施設にと思ったんですけど、市外の病児保育の施設と比べて預けづらいなと思いました。市外の病児保育に預けたときは、病院に併設していたので、何かあったときに親がいなくても診察してもらえて、さらに投薬などについても電話がかかってきて対応してもらえました。市内の病児保育の施設は、病院に併設じゃないので、事前にお医者さんの診察が必要でそれからしか預けられないです。うちの子も朝一番で体調が悪くなったので、朝、病院に行き、それから預けようと思うと、半日仕事ができないという状況でした。それと受入れ人数がたしか5人くらいでそれも非常に少ない。おやつ準備も自分で用意していかなくてはいけなくて、時間外料金も早朝は特に割高です。受け入れてもらった病院は8時からだったんですけど、結局自宅から「おひさま」まで10分かからずに行けるのですが、30分くらいかけて市外に通って、上の子も保育園に送っていったという状況でした。保育料の無償化もありますが、保育園では基本働いている親さんが多いので、多少なりとも金額的な負担があっても安心して子育てできるという環境をと思います。</p>
会長	<p>病児保育は山県市内の施設としては「おひさま」一つ、その他の市町村のところに受け入れてくださるところがあってそこに行っているということが多いのかなということですね。施設の開設形態によって、病院に併設されていれば、お医者さんがいらっしゃるということで病児保育をうける場所によって対応が違うということはあると思いますが、これは山県市に限ったことではなくて全国的な問題です。朝に病院へ連れて行</p>

	って診断書をもって、空いているか確認して病児保育に預けるという非常に複雑な手続きの問題について、山口市として今後の対応として何かお考えがあればと思います。
事務局	病児保育については今、山口市の社会福祉協議会に実施していただいておりますので、今日伺ったご意見は、社会福祉協議会のほうに伝えさせていただいて、対応していただけるよう調整につとめていきます。
会長	できれば山口市としては、朝早く仕事に行けるように対応していただければ一番良いと思いますので、そのあたりを考えていただければと思います。保護者の方からはどうでしょうか。ご意見があればせっかくの機会です。
委員	私は保育園預ける前の子と今預けている子がいますが、公園がなくて困っています。美山は保育園の園庭が解放してあるのですが、そこで遊ぶしかないです。公園があっても大きい広場が一つしかなくて、中学生の子が遊んでいると小さい子が遊べないので、家にとじこもってゲームばかりという状況です。この前保育園で話し合いがありましたが、公園がないので美山にも公園が欲しいという意見が多くありました。
会長	施設の問題で、やはり外で遊べる場所が必要だということですね。
委員	はい、行くところがなく、家でゲームばかりすることが多いので。
会長	いかがでしょうか。
事務局	そういうお話は伺っておりますが、なかなか子育て支援課がどうするかということまでは、今お返事ができないのです。ただ遊ぶところがないというお話は聞いておりますので、子育て支援課としてどこまでできるかはわかりませんが。
会長	他にはいかがでしょうか。
委員	二つ関連してお伝えしたいと思って、今、委員が言われた病児保育について、企業さんの理解も必要だと思います。今おそらく企画財政課のほうで今年度の事業としてあって、女性が活躍できる職場環境を企業さんに求めていくというような事業がありそこともつながってくると思いますが、私が委員としてその会議で発言をさせていただいたときに、子どものケアということで発言しようとする、それは子ども・子育て会議でご発言くださいということになりまして、そこで切れてしまうような感じになりました。それと先ほどの公園のことですけれども、市の総合戦略を策定する会議の場でもやはり私は今回待機児童の話させていただいたら、同じように子ども・子育て会議のほうでお話くださいと言われてしまいました。これを解消する一つの方策として、ここには今回出てみえないですけれども、企画財政課さんのほうに一人、男女共同参画

	<p>の係の方でもいいので、ご出席いただけないかと思います。それから男女共同参画の場に子育て支援課さんが入っていただくであるとかそうした情報共有が必ず必要ではないかと思います。総合戦略の会議のなかでもそのとき何かあったのかもしれませんが、子育て支援課さんは入っておられませんので、情報の共有のためにもこういう場にそういう関連する、第5章のワーク・ライフ・バランスは特に男女共同参画で企画財政課ですので、ぜひ会議に参加していただけたらと思います。</p>
会長	<p>横のつながりは大切だと思うので、一つの会議だけでは限られてくると思いますから、全体としてつながっていけるのがいいかなとは思っています。</p>
委員	<p>今はもちろん社協さんが代表で病児保育をやっていただいていますけれども、そういった大変な状況のなかで人員の確保だとかいろんなことで、皆さんの要望を受けることに関しては大変かと思います。これから前進することに関しては、個人で医院を設けていらっしゃるお医者さんのなかで併設していただけた場合、どんなことに対応いただけるのかも踏まえてご検討いただければと思います。</p>
会長	<p>今の件で他によろしいでしょうか。 私のほうからよろしいでしょうか。先ほど放課後児童クラブの支援員の確保が子ども達が増えていくなかで難しいというのが課題であるということをおっしゃっておられましたけれども、増やす方策などについて何かお考えがあればお聞かせください。やはり見守っていただく支援員は必要だと思います。</p>
委員	<p>放課後児童クラブについてですが、やはりそれは頭が痛い話です。今、支援員をやっていただいている方は、先生のOBなど比較的高齢の方もいらっしゃいます。夏休み中の利用がかなり増えるため、今回も募集をチラシでかけましたが、支援員は誰でも良いわけにもいきませんから難しいです。夏休み中の放課後児童クラブは朝の7時半から夜の7時までありますが、昼間の時間帯なら良いですよと言われる方が多いですが、その時間帯の方ばかりいっぱいいても成り立たないので、時間に制約された支援員さんだけだと非常に難しいです。学校や保育園の先生のように安定した収入で職業として成り立って、順番にスキルがあがっていくという状態ならベストですけれども、支援というのは幅広く、勉強は教えますけど、健全育成という形でいろんな生活指導をしていくということがありますので、誰でも良いというわけにはいかないのです。職業として成り立っていないことに難しさがあります。経験のある人を順番に育てていってきちんとした支援をしたいという思いはありますが、時間帯が合わないこともあり、要件にあう人が集まらないです。これは</p>

	全国的な問題だと思います。チラシなどでもよく支援員の募集は入っていて、山口市よりも高い金額で提示されているところもございますが、ただお金をたくさん出せばいいというわけではなくて、支援員になりたいというところで考えていかなければ確保は難しいと思っております。
会長	夏休みや冬休みの期間中だと朝からで、平日ですと学校が終わってからですね。
委員	平日ですと3時間くらいですと、資格のあるひとは1,100円なので3,300円、月20日で66,000円ですね。やはり、金額的に職業としてはちょっと成り立たないと思われま。
会長	支援員さんを育てていかなければいけないというのも課題ですね。
委員	今、放課後児童クラブで支援員としてお手伝いさせていただいていますが、資料の放課後児童クラブの課題について「支援員の確保が課題」と書かれていて、それだけが課題のような感じになってはいますが、そうではないと思います。今、私がお手伝いしているクラブでは、1つの教室に1年生から6年生までの子どもが33人いて、朝7時半から夜7時まであずかっています。今年は暑さのため夏休み中にプールがなかったので、いつもはプールに行っていて「動」の活動があるのですが、今年は朝7時半から夜7時まで12時間近く教室の中で「静」ばかりでいます。一時期やわらかいボールでドッジボールをしていたのですが、やはり狭い教室の中ですから、危ないということでそれも取りやめて、ブロックで遊ぶとか、いろいろ支援員も工夫してはいるのですが、そういった活動が続いています。それでここに「健全な育成」とありますが、健全な育成とはなっていないのではないかと思います。本当に子ども達の日常が心身ともに健全な育成になるようになればいいなと思います。
会長	日々子どもさんの対応についての課題を少しでも改善していく方法としては、何か良い案がないでしょうかね。
委員	一つは設備・整備をきちんとすること。でもお金はかかりますよね。ということだとすると、夏休み中は1年生から6年生まで33人です。1年生から6年生までという幅がありますが、他の市は4年生までと定員を決めているところもあると聞きます。子どもの健全育成を目指していますが、中学校では子どもの自立という考えをされていますよね。それに対して、小学生の親御さんはお子さんを学童（放課後児童クラブ）に入れるという考えで、ちょっと矛盾しているなと思います。
会長	施設の基準や定員はどのようですか。
委員	教室ごとに定員があり、通常はそれを越していません。夏休み中少しオーバーするとことがございますが、施設的には整備をしていくという

	<p>ころです。小学校のような広いスペースでというのは大変ですので、支援の難しさはわかりますけれども、一人あたりの基準がありますので、広ければいいですけれども広すぎるといのもいけませんので、適正な広さを確保していきます。</p>
会長	<p>施設の整備など基準もありますので、最大限やれるところをやるしかないということですかね。改善策があるのであれば、それをしていただければ良いと思います。</p>
委員	<p>子育て支援センターのほうで、ファミリー・サポート・センター事業を行っています。平成 29 年度からなので、二年目になりますけれども、ニーズとして現在は概ね 1 歳からの受入れになっていますが、0 歳児の預かりをしてほしいという声もあります。センターのほうでも、アンケート調査をすると、やはりそういう声もあるということで、提案をさせていただいているところではあります。やはり、家族をもう少し支援することもすごく必要になってきていると感じています。それで包括子育て支援センターということで、妊娠期からのつながった支援ということを言われてきているので、産後のうつや産後の虐待に関しても必要になってくると思います。今後、ニーズ調査もあるとのことですので、こういった声があがってくるともわかりませんが、今後十分気をつけていかなければいけないのかなと思います。</p>
会長	<p>今、ファミリー・サポート・センターの受入れは、1 歳児からですか。</p>
委員	<p>概ね 1 歳からです。</p>
会長	<p>受けるほうと預けるほうの調整といいますか、それが非常に課題になっているということですね。預かってくださる方が数としてはそれほど多くないということですか。</p>
委員	<p>援助会員さん、預かる側の方ももちろん人数も課題ですが、高齢化という問題もあって、送迎などでも課題となってきています。</p>
会長	<p>0 歳児からの受入れも考えていかなければならないと思います。せっかくですので、今すぐ解決というのはなかなか難しいとは思いますが、こういうことが必要なんだというのは、ここで言うだけでいいと思います。</p>
委員	<p>ひょっとしたらシルバーさんなどのほうが運転が得意かなというところもあって、ファミリー・サポート・センターへのお願いとシルバー人材センターへのお願いと使い分けをしてみえるお母さんたちもいらっしゃるということはお聞きしていますので、シルバー人材センターさんとの連携を模索できればなと思います。そうすれば少しでも 0 歳児への支援ができるのかなとも思いますね。ただ、管轄もちょっと違うと思います</p>

	<p>ので、横の連携でアイデアを出し合っただけであれば。本当に日本全国の問題ですので、先ほど市長さんが有効求人倍率のことを言ってみえたと思いますが、有効求人倍率が2になると企業さんも人がとれない状況で、介護にいたっては有効求人倍率が4に近いです。介護・福祉・保育がおそらく今、支援員さんも含めてまったくと言っていいほど働く人が来ないという、人の取り合いをしているというような状況ですので、これはすぐには解消されないと思います。なので、こういうときほど、横連携で知恵を出し合うことが、必要な時代になってきたという状況だと思います。</p>
会長	<p>ますます人口が減っていくなかで、いかに労働力を確保するかというのが、日本全体の課題ですし、知恵をしぼりながら協力していくしかありません。</p>
委員	<p>実績一覧表の中の決算額がありますが、予算に関しても細かな予算をたてておりますか。概算で子育て支援という予算ですか。それとも、項目ごとの予算ですか。</p>
事務局	<p>それぞれの事業ごとに予算を立てています。</p>
会長	<p>今すぐ解決できないものもたくさんあるとは思いますが、とにかく問題をだしていただいて、みんなで解決していく方法を知恵をしぼって考えて、また市のほうでも考えていただければと思います。</p> <p>では最後の議題の子ども・子育て支援事業計画（2020年度～2024年度）策定に向けたニーズ調査について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>～子ども・子育て支援事業計画（2020年度～2024年度）策定に向けたニーズ調査について説明～</p>
会長	<p>計画策定に向けて、今年中に調査票を回収できれば結果がでてきますので、今年度中にみなさんで会議をとということですが、ぜひお集まりいただいて、ご意見のほういただきたいと思います。事業計画のニーズ調査について、こういう項目も聞いてほしいとか、こういうことはどうだろうかということがあれば、ご意見いただければと思います。ファミリー・サポート・センターの0歳児について意見がありましたので、そういうものも含めていけたらと思います。</p>

6. 閉会

会長	<p>いろんな意見を出していただいて、ありがとうございました。それでは、これで今日の議事に関しましては、終了したいと思います。それでは事務局へお返しします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。今回はさまざまな意見をいただきまして、あ</p>

	<p>りがとうございます。この意見につきまして、次回の支援計画、また子育て支援事業にかしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いい申し上げます。では以上をもちまして、会議を閉じたいと思います。ありがとうございました。</p>
--	---